

第3回千葉科学大学公立大学法人化検討委員会 会議概要

1 日 時 令和6年6月30日（日）14：00～16：35

2 場 所 銚子市市民センター ホール

3 出席者

○委員 9名出席

太田 康広 委員	出	小栗 一徳 委員	出	高岡 正幸 委員	欠
田村 秀 委員	出	矢尾板俊平 委員	出	伊藤 晴美 委員	出
齋藤 隆広 委員	出	野本 春道 委員	出	林 広幸 委員	出
松本 恭一 委員	出				

○銚子市

市長、副市長、企画課長、財政課長、企画室長

○学校法人加計学園・千葉科学大学

専務理事、大学事務局長ほか

○傍聴者 124名

○報道関係者 11名

4 会議内容

(1) 開 会

(2) 議 事

ア 前回会議の補足について

【学園・大学】千葉科学大学単体の貸借対照表について説明。あくまで試算で、正式に公認会計士に承認いただけるような正規のものではない。事前質問への回答は次のとおり。

No.1 令和6年3月末時点の建物勘定に関して、個々の建物ごとの取得価額、取得年月日、耐用年数、償却方法、期首、期末帳簿価額、減価償却累計額等の分かる固定資産台帳をいただきたい。また、千葉科学大学の固定資産明細表をいただきたい。

回答 学園様式の固定資産台帳は閲覧していただくことは可能。建物は大学共通のものと学部単位の2種類で、学科単位のものはない。

No.2 本部勘定（65億円）とは、本部からの借入金に当たると思われるが、公立化となった場合、この全額が加計学園から銚子市に対する貸付金、債権になるのか。

回答 本部勘定65億円は、本部からの借入に当たるもの。公立化により資産を移管する際に、銚子市に対する貸付金や債権になるとは考えていない。

No.3 図書5億4,500万円とあるが、その内訳（書籍名、金額）はあるか。

回答 財産目録に記載している。

No.4 私立大学退職金財団に加入しているか。退職給付引当金は、期末要支給額の100%を基に、財団に対する掛金の累計額と財団からの交付金の累計額との差額である繰入調整額を加減した金額を計上しているか。

回答 私立大学退職金財団に加入している。質問内容のとおり計上している。

No.5 減価償却引当資産、施設拡充引当資産などの積立資産が全く計上されていないのは、なぜか。現金預金も6億600万円しかない。

回答 減価償却引当資産、施設拡充引当資産は積み立てていない。このことは、学校法人会計基準上問題はない。現金預金6億600万円は、本部から当面の運用資金として千葉科学大学口座に資金移動している残高となる。

No.6 公認会計士と相談し作成された大学単体の貸借対照表を基に、公立化に当たり、銚子市に引き継げる現金の金額（4億円）は、どこを見ればわかるのか説明してもらいたい。

回答 公立化に当たり銚子市に引き継ぐ4億円は、貸借対照表の前受金2億2,694万6千円及び第4号基本金2億3,635万8千円を基に考えている。

【学園・大学】千葉科学大学の学部学科の再編あるいは規模の縮小という話が出ている。学部学科がなくなるという話は教職員、学生、保護者の動揺が大きい。加計学園としては現状のままで移行したいと考えている。クローズされる学部学科の教職員の雇用の問題、学生の卒業までの指導経費の負担、また、大きな施設設備を維持していくためには、入学定員を削ることで採算がとれなくなる。将来を考えても、現状での移管をお願いしたい。

【委員】公立大学法人も銚子市も、基本的に他の民間主体から借入れはできないという法的な制約がある。加計学園は、公立大学法人化した場合は、本部勘定（65億円）を全額債権放棄されるという理解でよろしいか。

【学園・大学】本部勘定（65億円）は、銚子市に対する貸付金や債権になるとは考えていない。債権放棄と解釈してもよい。ただし、本部勘定の中には、14現金預金の6億円も含まれているが、この6億円を債権放棄することはないと認識いただきたい。11借地権の3億5,700万円は、校舎敷地無償貸与時の土地の造成費用で、本部が立て替えている形なので本部勘定には含まれるが、債権放棄とは性質が異なると思う。

（学校法人加計学園・千葉科学大学 退出）

【事務局】前回会議の補足（薬剤師の合格率、赤字補填のための貸付けの可能性、公有財産貸付契約）について説明

イ 他の公立大学などの運営状況について

【事務局】資料1について説明

【委員】公立大学は、学生を順調に確保しているという見方が一部あるようだが、ここ数年は著しく厳しくなっている。国立大学でも以前から二次募集は学部学科単位でいくつかあった。国立大学は、受付終了までに定員に満たない場合は、必ず二次募集をしなければならない。公立大学もそれに準じている。これまで、公立大学ではほとんど二次募集はなかったが、昨年2校実施し、今年は名桜大学を含めて4校が二次募集をしている。少子化の中で、特に地方の私立大学は必死に学生を確保している。公立大学であれば安泰ということは全くない。公立化したところは、確かに一時的には学生が集まっているが、その後少しずつ学生確保が難しくなっている。様々な取組で何とか学生を確保しているというのが大多数の公立大学の状況と理解していただければと思う。

【委員】私立大学から公立大学に移行した12の大学のうち、東京理科大学に関わる大学が2つある。公立化後に、東京理科大学はどのように関わっているのか。

【事務局】山口東京理科大学は、公立大学法人と学校法人が教育に関する事項、研究に関する事項、産学連携に関する事項など7項目の連携協力事項について協定を結んでいる。諏訪東京理科大学についても詳細は把握していないが、姉妹校協定や公立化に関する基本協定を結んでいる。

【委員】運営に関しては、公立大学法人なので、はじめは東京理科大学の教員が中心であったが、段階的に入れ替わり、一般的な公立大学になりつつあると思う。

- 【委員】資料1の4ページで、千葉科学大学には運営費交付金は含まれないと思うが、その他の大学は歳出決算額と教育費総額に運営費交付金を含めて計上されているか教えてほしい。
- 【事務局】その他の大学では、運営費交付金など大学関係経費が、歳出決算額と教育費総額に含まれている。
- 【委員】資料をホームページに掲載する際は、補足を付けておくと市民の皆さんが見るときにわかりやすいと思う。検討いただきたい。
- 【委員】4ページの歳出決算額に対する割合が高いところ、10パーセントを超えるようなところは苦しいのではないかという仮説を考えた。自治体規模と同時に公立大学の適正規模というのがあると思う。そのあたりを説明していただきたい。
- 【委員】公立化した事例の中でも歴史的経緯が違うので、一律に扱うのは難しい。ただし、財政規模に対する割合がある程度高くなると厳しくなる。公立化すると自治体の中に、公立大学法人のマネジメント組織を作ることになる。そうすると小さな自治体では、厳しい部分が出てくると思う。
- 【委員】私の仮説は逆で、大きい規模感であれば、それだけ収益性が上がる面があると思う。規模が大きいほど、運営がうまくいったときに地域に落とす財政効果が大きくなる。
- 【委員】明らかに言えるのは今の千葉科学大学の規模は大きい。資料に示されている公立化した大学に限らず、2,000人の公立大学は上位20番の中に入る規模となる。公立大学では、4学年で数百人から1,000人くらいが標準的である。定員規模が大きいと定員割れの可能性も大きくなる。定員割れをしてもコストは変わらないので、その部分が赤字になる。適正規模については、現在文部科学省でも議論されている。
- 【委員】資料1の12大学がどういう学部を置いているか。千葉科学大学と同様に看護学部又は薬学部を置いている大学があれば教えてもらいたい。名桜大学のどの学部が定員割れとなったか確認したい。
- 【事務局】看護学科は名桜大学にあり、旭川市立大学には保健看護学科がある。薬学部は山口東京理科大学にある。（補足：名桜大学では、健康情報学科が大きく入学定員を下回った。）

ウ 公立大学法人化財務シミュレーションについて

【事務局】資料2について説明

【委員】建物の建替えなど一時的な支出は見込んでいるのか。

【事務局】加計学園が作成したシミュレーションと合わせる形で改修事業費として見込んでいる。建設から20年を経過するタイミングで令和8年度から令和11年度までの間に支出を見込んでおり、建設から40年を経過するタイミングでは、大規模改修のため数十億の支出を見込んでいる。更に、地域の特性を踏まえると、建設後20年のタイミングでは、空調関係のほかにも改修が必要な箇所が出てくる可能性が高く、実際にはもう少し支出が増えるのではないかと危惧している。

【委員】加計学園から提出された千葉科学大学の学部ごとの資金収支計算書を使って、学部ごとの定員充足関係などを見て判断した方がよい。学部ごとのシミュレーションを作成してもらいたい。

【事務局】前回の会議で、加計学園から学部ごとの5年間の資金収支計算書が提出されている。それと同じように作成することは可能なので、対応させていただく。ただし、加計学園が作成した資金収支計算書では、共通の資産・経費を按分していると思うが、実際に一部の学部を残して一部を廃止した場合にも、共通の資産・経費は残ると思う。今回そこまで明確にする

ことはできなかった。学部ごとに5年分の実績の平均を取って収支を出すことはできるので、次の会議までに準備をさせていただく。

【委員】大学の規模が大きいので縮小するという話が出ているが、共通費に関しては減らないので、各部門を縮小すると間接費がアップし、全体では黒字であっても、縮小すると赤字になるというケースがある。この数字から見積もることは相当難しいと思うが、検討していただければと思う。おそらく規模を縮小すると、売上や営業収益は減るが、コストはあまり減らない。規模を縮小することで赤字になる可能性は高いと思う。

【委員長】例えば学部共通の教養科目の按分をどうしていくか、これはカリキュラムの問題にもなってくる。加計学園でどのように按分しているか確認が必要である。サイズダウンしていくときの共有部分のコスト計算は、今の段階では難しいところだが、この後の議論が必要があるとすれば、考えていかなければならない。

【委員】6月4日の参議院文教科学委員会のインターネット審議中継を見たところ、公立化された後は、各大学における継続的な自己点検評価、自己点検評価を踏まえた第三者評価である認証評価、大学の社会に対する説明責任を果たすとともに、社会との対話を通じた教育に関する情報公表を通じて質の保証のシステムを整えていくという説明が文部科学省からなされた。このような文部科学省の査察、あるいは質の保証システムというのは、どのようなものなのか。

【委員】大学は、7年に1度認証評価を受ける。まず大学で自己点検評価を実施し、それを踏まえて、例えば大学基準協会から委員が派遣されて実地調査を行い、適合か不適合かを判定する。千葉科学大学でも7年に1度実施しているということがホームページに掲載されている。これは、公立化されたから実施される訳ではなく、国立でも公立でも私立でも同じようなことを実施する。私立は若干違う部分もあるかもしれないが、基本的には全て一緒である。大学の業界では、事前審査とその後の事後審査となる認証評価という質保証をしていくための仕組みがある。文部科学省は確認的にその説明をされたという理解である。

エ 地元ニーズ把握のための対応について

【事務局】高校生の進路希望に関するアンケートの実施状況について説明

【委員長】続いて地元の人材ニーズについて、委員から意見をいただきたい。

【委員】現状としては、銚子の産業を考えると大卒の人材を活用できる事業所は非常に少ない。主に高卒や中途採用が中心になっている。大卒を採用している事業所に、どのような大学がいいのかを確認したところ、地域のために新たな学部学科を作っても、今まである他の大学には敵わないという意見であった。経営者目線で考えると、公立大学を作るに当たって地元産業界のニーズは考えなくてもよいという結論である。

つまり、これからの時代にあった特色ある大学を作って、日本全国やアジアから学生を集め、銚子で学んでもらい、優秀な人材をそれぞれの地域に輩出する。そのような使命を持った大学がいいのではないか。その輩出先の地域の1つに銚子が入り、その人材を活用して銚子に新しい雇用・産業が生まれる、そういう方法がいいのではないか。

公立大学にすると地方財政措置として非常に有利な財源措置がある。1つは普通交付税で、学生1人当たり何十万円ともらえる。もう1つは特別交付税と地方債措置というものがあり、公立大学の地域連携などの取組に対して、財政面で非常に有利な措置をしてくれる。国が公立大学を応援してくれる制度がある。それらを利用して地域活性化をしていくのがいいと思う。

【委員長】 地方財政措置については確認が必要と思う。次回までに事務局で確認をお願いしたい。

【委員】 地元産業界の20から30ぐらいの事業所にヒアリングをした。千葉科学大学の卒業生は、看護学部、薬学部、危機管理学部とかなり専門的な分野の人材であり、地元の人材ニーズとマッチしないように思う。皆さん大学生を採用する気はあるが、どうしたらよいかわからないという意見も多い。例えば、商工会議所や銚子市が連携した上で、採用の幅を広げていくことが大事ではないか。また、中小企業が多いので、毎年採用することは難しいが、採用する際には、大卒も選択肢には入ってくるという声が多かった。

その中で、千葉科学大学学生アルバイト及び住居状況のアンケート結果を千葉科学大学に提供していただいた。銚子市でアルバイトしている学生数は、おそらく550人から630人くらいと見込んでいる。市内でのアルバイト収入は、1月当たりの合計で3,000万円から3,500万円くらいと見込んでおり、年額でいうと3億6,000万円から4億2,000万円程度の収入ということになる。銚子は観光の町なので、飲食店などで期間的なアルバイト需要は結構多いと思う。そのような人材として、大学生を求める地元のニーズは非常に多いのではないかと思います、数字を出させてもらった。

【委員】 地元の人材ニーズについて検討したが、薬学部と看護学部は全国にあり、仕事も同様にどこにでもある。看護学部は公立化により、銚子市立病院での人材確保が容易になると思う。近隣の旭中央病院は看護学校を持っている。自前の看護師を育てるというケースがあるので、銚子市でも同じように採用できるという考えはある。危機管理学部は、全国の自治体や企業に需要が多いと思う。地元の特化したものでなくとも、入学希望者が見込める魅力のある教育を提供できるかということ。例えば、航空技術危機管理学科のドローンは、小学生からも関心を寄せられている。静岡県の掛川工業高校には、ドローン防災航空隊というものがあり、災害時に活躍している。また、大規模災害が発生したときは、避難所の運営や救護の手伝いなど、学生に手伝ってもらえる可能性が出てくる。それもニーズの1つではないか。

【委員長】 進学ニーズについても、意見があれば伺いたい。

【委員】 高校生アンケートを実施しているので、正確にはその集計を待つことになる。地元の大学に進学したいというニーズはあると思う。しかし、公立化した場合に、入学希望者が増えることで、地元の高校生は入れなくなるという状況が出てくる可能性がある。高校卒業後の進路としてのニーズはあるが、公立化がベストであるかは別に考えないといけないと思う。

【委員】 大学というのは、地元のニーズで作ったり、存続するものなのか。公立化すると地方交付税が財源になる。地方交付税は、市民だけでなく国民の税金から出ている。世の中で皆さんが生活に苦しんでいる中で、国民の税金を使ってまで存続させるのかということが疑問である。やはりどのような魅力的な教育ができるかというところで判断すべき。魅力的な教育ができるのであれば存続してもいいかと思う。

オ 答申に向けて

【委員長】 前回会議では、論点整理メモ（資料3）で公立大学法人化に関し検討すべき5つの視点を示し、高校生アンケートや本日地元の委員の意見を伺うなど検討を進めてきた。もう1つは、現時点の公立大学法人のイメージについて、市長の考えをお話いただきたい。

【市長】 私立大学ではないので、産業界、医療界を含めて地元の人材ニーズというものが、市として求める部分であろうと思う。また、地元の高校生が入りたくなる大学というニーズ、この2点がないと公立化の理由付けが希薄になると感じている。もちろん、魅力的な大学を作り、全国から多くの学生を集めて経済効果を高めるという効果もあるが、公立化するという

ことは、どんなことがあっても市が責任を担うということになる。本当に公立化する意味があるという理由付けが必要であろうと感じている。

【委員長】答申については、千葉科学大学を公立大学法人にするか否かについて、一定の意見を市に戻す内容になる。現状のまま可なのか、否なのか、このような条件を付けたら可能性があるという条件付き可なのか、大きくはそのような結論になってくると思っている。次回は、答申の素案を議論しなければいけない。答申素案を作る上で、その方向性について意見をいただきたい。

【委員】どれくらいのタイムスパンで考えるかということが大事だと思う。18歳人口がこの先どうなるのかは、今の出生数でわかっている。長期スパンで考えると環境は絶対に悪化していく。公立化すれば授業料が下がるので、偏差値が上がり、倍率も上がる。地方交付税も入ってくるので、5年、10年は問題ないとして、20年後、30年後に財政負担が出てくることまで考えなくていいのかということが1つの論点だと思う。

【委員】公立大学は永続的に運営していかなければいけない。5年、10年で終わることではなく、長期スパンで考えるべきだと思う。将来負担については、潜在的にあるだろうということが前提になると思う。

【委員】留学生を3割くらいに増やすことを考えるべきだと思う。現状は日本人で足りない部分を留学生で補っているイメージであるが、最初から定員の3割、4割をアジアからの留学生で占めるようにする。日本だけで考えると少子化なので、アジアをターゲットにすれば、まだ大学は成長産業だと思う。

【委員】公立大学というのは、地域とともにあるべきで、他方、地方交付税を使って留学生を集めるというのは、全国的な批判を受けると思う。私立大学であれば、建学の精神は様々であるが、税金を使って学生を集めることについて、留学生も大事だと思うが、それが主眼となったときに、銚子の中で受け入れられても、対外的に他の地域から批判があるだろうというのは想像できる。

1つコメントしたいのは、委員長が作成した論点整理メモがまさにそのとおりで、これに沿って提言をしていくべきだと思う。例えば、他大学との競争性では、来年度、拓殖大学で定員150人の危機管理系の学科を作る。危機管理学部は、確かに一定のニーズはあると言いながら、競争という面でそういう動きもある。薬学部に関しては、姫路獨協大学の薬学部が募集停止となり、かつ、全国的に見ても新設は認めないということは、需要と供給のバランスが悪くなっている。さらに、これだけ薬剤師の合格率が低いというのは、④の教育の質という部分にも関わってくる。確かに学生の質が上がるのは事実だが、それが結果的には、地元から入れなくなるということになる。そういう中でどう進めるのか。加計学園の認識では、100かゼロかで、中間がないということを聞いたときに、どういう答申を出すのか非常にハンドリングが難しいというのが感想である。

【委員】国立大学は非常に授業料が安く、国の運営費交付金を受けている中で留学生がたくさん来ている。留学生については少なくとも授業料を上げるべきという議論が出てきている。公立大学になると国から地方交付税が入ってくる。それをもって、銚子で外国人留学生を大量に集めていくとなると、かなり批判があると思う。

【委員】教育の内容というのは、社会のニーズに合わせて有益な人材を供給できるかどうかが生命線だと思う。都内にある著名な大学やブランドで人を集められる大学とは違い、特色のある教育を行えない限りは、ニーズを捉えることができない。外から人を呼び込むことはできない。市内の子どもだけでは、大学を維持することはできないので、外から人を呼び込んで

大学を維持する形にしないと高等教育にはならない。もし大学をこのまま維持していくのであれば、特色のある学科を考えないといけない。

全てを新しいものに変えることはできないと思うので、個人的には、収益基盤が確保できている看護学部は残して、危機管理学部の中でも国費を投入してふさわしい学科は残し、そうではない学科は閉鎖する。併せて、動物危機管理学科など特色のある学科があるので、市場動向を捉えた教育内容であったり、インバウンドで外国人観光客が非常に増えているので、そういう企画のできる人材であったり、日本語教育の国家資格化が始まり、日本語学科というのは各大学で設置を進めていて、世の中から求められていると思う。このような機会にきちんとニーズを捉えた学科を加計学園と交渉して取り入れられないかということを提案したいと思っている。

【委員】どれくらいの年数のスパンで見えていったらいいかについては、どこの地域でも20年後、30年後のことは分からない状態で、毎年頑張っている中で、銚子市には20年後のことを考えている余裕はないのではないかと。他の私立大学や公立大学も厳しいという中で、早めに千葉科学大学を公立化して、より良い大学にしていくということを始めた方が他の大学との差別化になるのではないかと。再編を待って公立化するとすると、その前に銚子市がどうなってしまうのかという不安がある。それを踏まえた上で答申を出した方がいいと思う。

また、地元のニーズに関しては、地元の学生が行ける大学とは思いますが、逆に、公立化により偏差値が高くなれば、そこに入りたい学生もいると思う。公立大学になることで入りづらくなる人は確かにいると思うが、入りたいと思って入れたことを誇りに思う子も出てくると思う。そういったことを答申に入れていくといいと思う。

地元産業という面で考えると、どのような経済効果があるかを論点にしていくべきで、地元のニーズはそこにもあると思う。例えば、80億円の建替費は、公立化されたら公共事業になると思う。地元の業者を優先することもできると思うので、地元にお金が落ちるという意味で、地元の産業を回すということも大事なところだと思う。

【委員】前向きな議論をする余地はないのではないかと。新しい学部学科を作ることはものすごく時間がかかるし、教員も不足している。我々のミッションは、今ある3学部6学科のこの大学をどうすべきかだと思う。新しいものは、時間もないし、設置審議会のクリアも含めて、非常に大きなハードルがある。基本的には今あるものをどうするかという議論をすべきと思う。

【委員】今ここで公立大学にすると、5年、10年は良さそうだが、20年持つか分からないという状態でそのまま先送りするというのは、銚子市の総意でいいのか。20年後に大変な負の財産が残ってしまうということではないのか。

【委員】総意ではないと思うが、先ほどのシミュレーションは、学生が少なくなることを見込んで出したものだと思う。例えば10年後、その後の20年間が大変だということになれば、徐々に年数をかけて採算が取れない学部学科を変えていくというような前提があれば、20年後、30年後が考えられると思う。

中長期の考え方はすごく難しい。会社を経営している中でも、5年後の中期計画、10年後の長期計画を考えたときに、なかなか当てはまらない。大企業でも2、3年で、中期ビジョンを変えよう、長期ビジョンを変えようというところもある。10年見ても長期だと思う。目先の10年は持つという評価があるのであれば、その中で改善して前に向かっていく1つのチャンスではないかと思う。

【委員】会社の場合は事業内容を変えられる。ただ、今回は教育大学なわけで、大学業から転業はできない。また、教育大学のマーケットが細ることはほぼ確定している。夢を語って箱を残すと、20年後、30年後に大きな財政負担になる。そのリスクを取るかどうかだと思う。

【委員】大学は何のためにあるのか。先ほど魅力的な大学と発言したが、やはり社会に役立つ人間を育てるために大学はあると思う。今こういう状況になって、千葉科学大学にある看護学部は、自宅から通える城西国際大学や成田の国際医療福祉大学など、代わりになる大学があると思った。20年後というのは本当に考えにくいと思うが、最近私がショックを受けたことは、広報ちょうし7月号に掲載された5月の出生数が4人だったこと。全国的に地方都市の人口が減っている中で、定員100パーセントを維持できるのかとても心配である。更に、大学経営の実績がある加計学園が一生懸命やった結果がこれだとしたら、銚子市に移管され、公立化されても、千葉科学大学の先生がそのまま公立大学にくるのであれば、人材は変わらない。銚子市の職員は今の仕事で手いっぱい、新たに雇うということが果たして可能なのかと思う。

【委員】地元の人たちから意見を預かっている。例えば大学が撤退という形になると、困る人も出てくる。大学により年額20億円の経済効果があると発表されていたが、それがなくなると経済効果だけでなく、そこに携わっている商店や大家さんも困るわけで、そのような意見も検討の中に入れられるものか伺いたい。

【委員長】資料3の論点整理メモでは、地域経済・地域社会への効果・影響という項目を入れている。地元の委員の皆さんはそれぞれの団体の代表者だと思っているので、そうした生の声を是非聞かせていただきたい。

【委員】今まで伺った意見などをまとめているので、資料として出させていただきたい。

【委員】私が銚子市民だったとしても、地元で大学がなくなるのは辛いと思う。まちが衰退するのは本当に辛いし、大学がなくなったら、いろいろな人が困るのはわかる。ただ、全国の大学の置かれている環境や少子化ということを考えたときに、銚子の未来を考えると、それを残し続けることが、5年先、10年先の銚子にとって本当にいいことなのだろうか。そこは、はっきり自信が持てない。年間70万人くらいしか生まれていないわけで、大学自体、統廃合など相当変わっていかないといけない。たぶん6、7年前に公立化を考えていたら、まだ可能性はあったのかもしれない。こういう状況になっては、公立化が成功するのは、かなり低い確率だろうというのが私の率直な考えである。地域にとっては、何とかしてほしいという思いはある。ただ、高等教育機関、大学の置かれた環境、少子化ということを考えたときに、どこを選択するか。ただし、両論併記の部分はあってもいいのかなと個人的には思う。

【委員】現状を前提にしてどうするという議論ではなくて、現状を打破するためにはどうしたらいいかという発想をしなければ、10年であろうと20年であろうと先はない。変化に対応できなければ、いずれにしても難しい話である。まずは、能力のある経営者を連れてくるということをししないと、この話は先に進まないのではないかと個人的には思っている。

【委員長】18歳人口が減少している中で、国の中央教育審議会では、今の大学の規模が、国立、公立、私立を含めて大きすぎるという考え方の中で、これをどう縮小させていくのか、統廃合の手段を含めた検討を進めていると聞いている。だいぶ厳しい環境の中での議論になると思う。

公立大学ということで、20年後、30年後という遠い話ではなく、いずれにしても市の負担がかかってくる。一方で、プラスの部分では税収が上がったり経済効果があったりということもある。こうしたバランスの中で考えていかなければいけない。公費負担、市民の皆さ

んの負担がかかってくる可能性がある中で、どういう大学であれば公立大学として市民の皆さんに納得していただけるのか、ということを議論していかなければいけないと思う。やはり市と公立大学と市民の皆さんが一体となって、こういう大学が地元にとって必要で、ある程度負担があっても、あるべきだという強い熱意がこうした議論には必要だと思う。

この検討委員会では、こうした熱意を受け止めさせていただきながら、市に公立大学法人化の検討をしていただくための材料を答申していきたいと思う。ただし、学部学科の再編は、かなり難しくなっているというのが現状である。文部科学省でも、今後さらに審査が厳しくなるだろうという見通しである。現状で上手くいかなかったら変えればよいということは、難しいと思う。相当の覚悟を持って考えていかなければいけない。そうしたことも踏まえながら、答申を作りたいと思うので、次回までの間にまた意見があれば、事務局にお寄せいただきたい。引き続きご協力をお願いしたい。

(3) その他

【事務局】次回の会議日程について、第4回の会議は7月28日（日）、時間は15時30分開始、場所は銚子市保健福祉センターを予定している。

(4) 閉 会